会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和6年度第2回高松市健康づくり推進懇談会
開催日時	令和6年11月21日(木)14時～15時30分
開催場所	高松市保健センター5階 研修室
議題	次期高松市健康都市推進ビジョン(第3次)案について
公開・非公開	■ 公開 □ 一部公開 □ 非公開
非公開の理由	―
出席委員	今城委員、植中委員、植松委員、久保委員、住吉委員、九十九委員、都築委員 西成委員、林(哉)委員、平尾委員、三村委員、横井委員、横溝委員 以上13名 (欠席7名)
傍聴者	1人(定員5人)
担当課及び連絡先	保健医療政策課 839－2860

【会議経過及び結果】

次のとおり会議を開会し、議題について協議した。

1 開会

河野健康福祉局長挨拶

平尾会長職務代理者が議長となり議事進行

2 議事

議題(1)次期高松市健康都市推進ビジョン(第3次)案について

資料1、2、3に沿って事務局から説明

【委員】

資料3の1番に関しては、国の施策なので、そのまま使用するので大丈夫だと思う。

3番に関しては、本ビジョンの中に、女性に関することと、次世代に関すること、双方からのアプローチが必要ではないかと感じている。

青年会議所は 20 歳から 40 歳までの会員がいる団体で、子育て世代というところで、2018 年と 2019 年に内閣府にも、母子の健康に関して意見具申もしているため、この分野の一助となればいいと考え、このような意見をさせていただいた。

その資料に関しては、また、皆様にお伝えしたい。

【委員】

資料3の２番の意見について、資料１の分野達成状況を見ると、歯科医師会の関連している１(6)歯と

口腔の健康については総合判定が A だが、2（3）糖尿病はCということで、非常に危惧している。
　糖尿病と口の健康は、非常に密接な関係があり、糖尿病を治すためには、お口の健康を守らないといけないということを、もっと広く、皆さんにご理解いただきたいと思っている。
　コラム等での紹介と書いているが、場所はいっぱいあるが、糖尿病の横にあれば、関係があるかなと思って、見てくれると思う。
　我々の取組としては、基本的には市民の健康、寝たきりの人を少なくしたい、フレイルの患者さんを少なくしたいというのが 1 つの目標であり、頑張っている。その中に、オーラルフレイルという、お口の健康を守っていけば寝たきりの率も少なくなり、長く健康でいられるというような、市民の生活を守っていくことを目標にしている。医師会で考えるフレイルの部分と、我々歯科医師会が考えるオーラルフレイルという部分も、コラムのどこか入れていただけるとありがたい。
　先ほど、妊婦の話になったが、妊婦歯科健診に関して、歯科医師会は、市行政に対して、妊婦になったお母さんにお口の中の健康を診させてもらっているが、2 年前から、妊婦のときに診られなかったお母さんは、産後 1 年間にお口の健康を診られますという個別の案内をしていただいて非常にありがたい。しかし、妊婦さんの健康を守るという上では、赤ちゃんがお腹にいるときの状況と、産んだ後の状況は、全く別なので、ぜひ産前産後のお口の状態を診たい。その時に、赤ちゃんの質問にも答えられるし、いろいろな悩み事にも答えることができる。お母さんが外に出て行くとか、歯医者に行くというのが、健診であれば、個別で来ていただきやすく、より妊婦さんの健康も守っていきたいと思っている。そういうあたりの要望も含めて、コラム等で、もうちょっと付け加えていただきたいと思う。

【事務局】
　資料2の 64、65 ページの糖尿病のページにスペースがあるので、ここで口腔と糖尿病が密接な関係があるということを書く予定にしている。
　また、58、59 ページの歯と口腔の健康のページにもスペースがある。取組として、地域事業者は、オーラルフレイル予防の周知・理解を推進するということ、行政の方は、関係機関等と連携して、オーラルフレイルの周知・理解に取り組む。ただ、市民向けにフレイルというのは、まだ分からない方もいるので、イメージやコラム等を利用して周知・理解を図ることを検討している。

【委員】
　コラム等は、市民がどのように利用するのか。どのような情報発信をする予定か。

【事務局】
　この計画は、概要版を作成することにしており、いろんな機会で配布するということを検討している。その他、ホームページで計画の PDF を掲載する予定である。また、行政のそれぞれの組織別にホームページがあり、そこでは市民に向けていろいろな周知啓発の情報発信はしている。

【委員】
　多くの市民は、スマートフォンで見るため、利用環境に合わせた情報発信の工夫を検討してみてはどうか。

【委員】
　一市民として、計画は、膨大すぎて、なかなか飲み込めないものが多い。ぱっと１つあれば、目につくと思うが、特に、自分が壮年期だから壮年期の項を見なきゃと思うことは、あまりないと思う。そのため、見て欲しい方の目に、どうやったら触れるのかということを考えていただきたいと思う。

【委員】
　専門はまちづくりで、中でも都市環境デザインを専門にしており、サンポートや中央公園の再整備に関わっているが、そういった施策が、健康都市推進ビジョンの中にもしっかりと明確に描かれたというところで、紐づけがされてすごくいいなと思った。
　ここに書かれると同時に、行政の各部局でも、ぜひ情報共有をし、実際にこういったところを連携してやっているということを、担当の中でも理解してもらいつつ進めて欲しい。
　今、県内では、例えば丸亀、坂出、善通寺等で、一気にウォーカブル事業が進んでいる。これまでは、車にとっては便利だったところが、再整備によって、歩行者にとっては便利になるが、結果的に車にとっては不便になる。そのため、ぜひ、健康部門からも援護をしていただければありがたい。
　私が関わっているところでいうと、例えば、丸亀市はお城前が４街区あり、マルタスと市民会館を整備して、道路を全部廃止して、公園化しようという取組がある。善通寺では、市役所と駅が近く、そのあたりを歩行者空間化することの社会実験をしようとしている。
　また、私が、地域包括ケアの方でも、四国厚生支局がやっている委員会等に関わっているが、そこでも、高齢者のフレイル予防にとって一番大事なのは、行きたくなる場所、散歩したい場所を作ることだ。今後、サンポートもそうなっていけば、すごく福祉政策にとっても有効だという話をいただいた。やはり、都市整備部局で今進んでいることも、こういった社会福祉・医療とすごく関連が深いというところを、是非ともメディアも含めて、一般市民の方々に認識を作っていけたらいいなと思っている。

【委員】
　この資料を見ただけでもすごく膨大な項目があり、行政が１つ１つ取り組んでいるのはすばらしいと思う。
薬局でも、いろんな患者さんが来られ、糖尿病の方や妊婦さんもいれば、足腰が弱っている方もいる。
　高齢者の方は、今まで元気だったのに、転倒して入院され、急に、そこでガクッと悪化されたり、認知機能が衰えたりする方を目の当たりにしてきた。
　自然に健康になれる環境づくりという取組が、この中でもとてもすばらしいと思う。糖尿病の人で、あまり食べないようにとか、糖質を控えてくださいねと言ってもなかなか難しいが、いつの間にか、楽しくウォーキングができて、栄養バランスも上手にとれて、知らず知らずに健康になれればいいかなと期待をしている。
　すばらしい取組をされているので、いろいろ周知されていると思うが、まだまだ市民の皆さんは知らないことも多いと思うので、薬局も連携して周知をしていきたいと思うが、今後も、広く知られるように周知をお願いしたい。

【委員】
　資料１の８ページを見て、項目設定の考え方では、国と県の項目に上回って、市で独自設定をしていると

いう説明があり、すごく頑張っているなと思った。
　また、資料１の１ページについて、総合判定Aの分野は、おそらくこのままでいくのかなと思うが、それを維持するは大変だと思う。さらに、C判定をBやＡへと取り組んでいくには、皆さんの協力で頑張っていかないといけないと思った。また、協力できるところは協力したい。

【委員】
　素朴な疑問だが、私は子どもが２人おり、小学校４年生のときに、小児生活習慣予防健診として採血をした記憶があるが、それ以降、高松市の方で、小児生活習慣病予防健診の採血はしているのか教えて欲しい。
　香川県のホームページを見ると、受診率やどれぐらいの子どもが生活習慣病になっているかなどが出ている。高松市だけ中学１年生の採血の欄に数値が入っていなかったが、やっていないのか。小学4年生で小児生活習慣病予防健診の採血をしているが、その後、糖尿病や肥満について、追跡調査がされているのかどうか、疑問に思っていた。また、以前と今では、子どもの糖尿病や肥満がどれくらい変わってきているのか、データがあれば教えて欲しい。

【委員】
　小学校4年生の小児生活習慣病予防健診は県下の各市町で行っているが、中学1年生など他の学年の実施は、各市町に任されている。高松市は、中学1年生の健診は行っていない。（中学1年生は、小学4年生の結果をもとに、個別に実施通知し、希望者が受診）

【委員】
　評価結果を見て、やはり食生活や糖尿病については、かなり改善が必要だと読んだ。
　資料１の９ページの新たな推進施策で、飲食店等と連携し、自然に健康になれる食環境整備に取り組みますと書かれてあり、この評価指標が、ヘルシーたかまつ協力店の数、一択となっている。
　新たな推進施策として実施する取組として具体的に考えていることがあるか。新たなメニューを開発するというあたりを、登録基準に加えるなど、何か新しい取組があれば聞かせてもらいたい。

【事務局】
　自然に健康になれる環境づくりという施策分野が新たな視点という意味であり、これまでもヘルシー高松協力店数は、評価指標としていた。さらに、日常生活における歩数は、目標２点目の居心地がよく歩きたくなるウォーカブル空間を増やす、と関連している。
　ヘルシーたかまつ協力店に行って食べるだけで健康になる、こういった視点は、これまでの計画にもあったが、さらに特出しして、自然に健康になれる環境づくりという視点をこの計画に盛り込んだというところが新たな視点である。
　行政の取組としては、スポーツ施設、歩道、公園などの利便性の向上を図ることで、市民がそこに行きたくなる、また、様々な機能が集まるサンポートエリア等をウォーカブルな空間となるよう、都市空間の再整備に取り組むといったことが、これまではなかった視点であり、都市整備とあわせた健康づくり施策という新たな視点である。

【事務局】
　食育という視点では、地域の食生活改善推進委員が、親子クッキング教室を実施するなど、野菜をたくさん摂るような運動を進めている。また、食育フェスタ等も行っており、野菜を摂る生活になるように、行政としても、これまでも、これからも続けていきたい。

【委員】
　私は一般市民の立場でビジョンを見たところ、きめ細やかにたくさん指標や目標が設定されているが、前回の評価結果を見ると、次世代の健康や壮年期の健康という、子育て世代にとっては痛いところがC評価となっていた。私も普段、生活をしていて、仕事や家事がある中で、どれだけ自分で運動ができる時間を作っていけるか。子どもには、きちんと栄養が整ったものを食べさせるが、大人はどうしても後回しで、残ったものを食べるようなってしまう。また、子どもの歯科検診はきちんと連れて行くが、どうしても自分の歯科健診は、時間があれば行くということになってしまう。自分の健康に対する意識や優先順位が下がってしまうというのは、どうしてもある。子育てをしている一般的な保護者は、このビジョンから知識を得る機会はなかなかないのではないか。そのような子育て世代の人たちが、本当に自然に健康になれる機会について、行政側からも提案したり、情報を流したりしてくれると、とても助かる。
　瓦町 FLAG でも夕方に 40 代を対象にした健康講座をしていたり、コミュニティーセンターでもヨガ教室をしていたりするため、このような計画を通して、それぞれの部局から提案をしたり、施策を出したりしていただけると非常にありがたいと思う。

【委員】
　ぜひ、保護者であっても健康になる機会を持って欲しい。子どもは、保護者の行動を見ているので、大人になったら健診に行かなくてもいいと思うと困る。

【委員】
　私は、介護予防教室を手伝っている。今回の計画を見て、地域が大き過ぎて、やることが多過ぎるのだと思うが、もっと具体化をしていかなければ先が見えないと思った。例えば、塩分摂取量を 9 グラムから 7 グラムに、という目標を立てているが、うどんを一杯食べたら約 4 グラム摂取するのに、あとの 3 グラムを 2 食でどうするのか。うどん食べる回数を減らすのは、うどん屋さんの死活問題にもなり、なかなか地域的に難しい部分がある。
　香川県ではベジメーター（簡単な測定で、日々の野菜摂取状況が数値でわかる測定機器）も行っているが、野菜をもっと食べて、塩分の排泄を促す方がよいのか、具体的な部分を詰めていかなければならないということが気になった。
　また、オーラルフレイルについて、地域事業者といっても、介護事業者のようなところになると思うが、もっと幅を広げて、具体的な部分を詰めていく協議が必要ではないかという感じがした。
　高松市というと、中心部をイメージするかもしれないが、結構田舎の方も多いため、もっと地域を細かくして、地域コミュニティで対策をするといった目標もあってもよいかと思う。
　また、ウォーカブルな対策について、サンポートまで行けない人も多いと思う。地域では、よい散歩道があるのに、街灯がなくて歩けないなど、各地域で歩けるような施設があったり、取組ができたりすればよいと思っている。中強度の運動がフレイルの予防に一番効果があるという研究も目にしたが、

歩ける高齢者が動きやすい、歩ける場所を地域で用意することも大事だと思った。
　さらに、香川県は、高脂血症や糖代謝異常の子どもが、問題になっている。小学校の方で、例えば、食後、教室内で過ごさないようにするなど、食後の運動がとても大事なので、具体的な対策が見えればもっとよいと思った。

【委員】
　この建物に入ると、1 階玄関にたくさんポスターやパンフレットがあった。その中で一番目についたのが、オレンジ 1 色の大きいポスターで、野菜を食べようというものがあった。私は、初めて見たが、あのようなインパクトのあるポスターは、どこに配っているか。スーパーや学校など、たくさん配って欲しい。子どもたちや、料理を作る立場の人が、目に触れるところにあるとよいと思った。

【事務局】
　人参を切ったものを一面に敷いているポスターで、広めていけるよう、取り組んでいきたい。

【委員】
　私は、退職後、市から健康診断のお知らせが来るようになった。忙しくて行けていないと、何度も受診勧奨のハガキが届いた。知り合いでたばこを吸う人は、こういう危険があるため病院へ行くようにというお知らせが届いていた。政策として、やっているのには頭が下がる。
　一般市民にとっては、このようなビジョンは、なかなか目にできないが、四国新聞で月 1 回行っている健康新聞などは、皆さんよく見ていると思う。行政として、四国新聞やリビング高松など、一般市民の目に触れるようなところに働きかけをしているか。フレイルなどは、よく健康新聞でも取り上げられている。

【事務局】
　野菜を使ったメニューについては、新聞に掲載依頼しているところである。

【委員】
　食べて菜というのは、スーパーで見たことあるが、給食にも使われており、非常に有名だと思う。子どもは、作らなければ食べないため、どんどん働きかけをして欲しいと思う。
　歯科医師会として行っている、糖尿病などについての取組を具体的に教えて欲しい。

【委員】
　地域のコミュニティセンターで行政が行っている居場所づくりなどから要望があれば、歯科医師会の医師が行き、質問事項に答え、オーラルフレイルや、口の健康を守っていけば、将来寝たきりの率が少なくなるということを伝えている。
　そもそも、自然に健康になれるということができているのは、学校歯科の取組であり、今は、子どもの虫歯の率はとても少なくなっている。これは、歯科医師会の先生が、昼間、歯ブラシ一本で健康になれるという活動をずっとやってきたおかげで、小さい子はむし歯になる人はとても少ない。歯ブラシ一本と、できればフロス、この 2 つの道具さえあれば、自然に健康になれる環境になると思う。

居場所づくり以外に、健康教室など様々な場で、同じような話をさせてもらっているので、ぜひ活用して欲しい。講師料はいらない。

【委員】
健康長寿に大切なのはフレイル問題で、口腔衛生について、8020を守りましょう、生きるためには食べることが大事ということを推奨している。
資料1の7ページで、「2社会環境の質の向上」が新設となっており、その中に「社会とのつながり・こころの健康の維持及び向上」があるが、自殺の問題を解決していくためには、こころの健康が大切である。最近は、小中学生が自殺することも多いため、注視し、しっかりと推進して欲しい。
また、健康診断について、特に高齢者はかかりつけ医を持つということがよいと言われているが、医院や病院に健康診断のポスターは貼っているが、医者の方からも、「あなた受けていますか」という声かけもあればよいと思う。
資料2の68ページ、現状と課題に、「健康に関心の薄い」という表現がある。国の表現を採用しているのかもしれないが、「関心が少ない」という表現が適当ではないか。
先程、オーラルフレイルの話もあったが、歯科の定期健診を必ず受けましょうということを勧めて欲しい。

【委員】
資料2の 58 ページの指標で、皆さん 8020 運動というのを知っていると思うが、歯科医師にとっては、ほとんど関心がない。60 歳で 24 本以上という指標についても同様で、特に意味のないものだと思っている。8020運動は非常に大切であるが、グラグラでもよいのであれば、80 歳で 20 本の歯を残すことは可能である。しかし、今は、機能歯数といって、きちんと役に立つ歯を残すことが大切となっている。入れ歯や差し歯でも、噛む機能のある歯を残すことが必要である。8020 運動は、残存歯数という、ただ残っている歯の数のことをいうが、そうではなく、入れ歯でもよいので、機能できる歯を作っていくことが大切なため、できれば機能歯数という言葉を付け加えて欲しい。
先程、子どもの歯科健診は行くが、お母さんはなかなか行けないという話があったが、高松市では、節目健診という 30、40、50歳などで歯科健診を行っている。しかし、歯科医師会としては、定年後の 60 歳以降は、節目でなく毎年歯科健診をやって欲しいと県や市に要望をし続けている。なかなか実現しないため、市民の方からも、ぜひ声を上げていただければありがたい。

【委員】
先程、口内環境という話があったが、青年会議所の事業の 1 つとして、カンボジア青年会議所の事業に参加したことがある。都市部から2時間くらいの田舎の地区に、幼児から小学校 4 年生までの生徒が 200 人ぐらい集まっていた。そのうちの 90%が虫歯で歯がないという状態で、そこへ、日本青年会議所や医師会からサポートを受けながら、その子どもたちに、歯磨きの仕方を教えたり、その場で治療をしたりしていた。
やはり、教育という分野は、非常に大事だと思った。先程、大人の動きがそのまま子どもに伝播するという話もあった。大人は、様々な教育を受けながら今の状態になっており、どうしても偏りがある。アンコンシャス・バイアスという言葉を使うが、一人一人は偏りあっても、地域や集団、チームで、子ど

もたちによい環境を提供できればよいのではないかなと思う。そして、次世代の健康にフォーカスできていくのではないかと感じた。

3　その他

【事務局】

・次期高松市健康都市推進ビジョン（第3次）の公表は、令和7年3月末の予定

・次年度の高松市健康づくり推進懇談会は、年1回、令和7年11月頃の予定

4　閉会